

# 「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



## 心の汚れと掃除！ ～「何のためになぜやるのか」の考えを深めるために！～

「雑巾の役目は汚れを雑巾に移すこと！これがわかっていないとただ雑巾をすべらすだけ、『拭いたつもり』になる」、ある掃除のスペシャリストの言葉。「いまだかつて、倒産した企業で、きれいに整然と掃除が行き届いていた会社はありません」とイエローハットの創業者・鍵山(かぎやま)さん。その通り学校だけでなく、業績が落ち込んでいた企業が掃除教育に取り組んだ結果再生に成功した例はたくさんある。それは床の汚れを取り除いているようで、実は心の汚れを取り除いているから。掃除がうまくなってくると、汚れた場所を積極的に探すようになる。見落とされがちな場所を考えるようになる。汚れが気になり始め、きれいになりたいと思うようになる。そして、**掃除の力**だけでなく、**学力(仕事力)も高くなる**。それは、**物事への取り組み方の「基本」が身についてくるから**、という人もいるんだ。なるほど～。掃除を高いレベルまで持っていきたいと願う、高い志を持つ学校の多くが取り組んでいるのが**無言清掃**。わが一中でもこの二年間本気になって取り組み、ある程度のレベルになったね。しかし、ここから先は「無言清掃」という形だけではたどり着けない。やはり**「何のために、なぜやるのか」**の考えを深めていくことなしには、**「日本一熱く絆強き学校」の実現**はない。今回は有名な仏教の話から考えを深めるきっかけにしてほしい。何のために、なぜやるのか。

昔、インドにお釈迦様という偉い方がいて、その弟子にシュリハンドクという若者がいました。彼は、物覚えが悪く、いわゆる勉強のできない人でした。そのことを皆に馬鹿にされ、自分でも情けなくなり、「私は、馬鹿にされ、少しも偉い人にはなれません。もうやめさせて下さい」とある日お釈迦様に相談しました。すると、お釈迦様は「何も心配はいらない。これできれいにしましょう」と言って、一本のほうきを彼に渡しました。それから毎日、彼はそのほうきで掃除を続けました。ある日、庭の掃き掃除をしていると、お釈迦様が通りかかり、「だいぶきれになりました。でも、一箇所だけ汚れているところがあります」…彼は不思議に思いました。庭はどこも汚れていません。「どこが汚れているのですか」と聞いても、お釈迦様は教えてくれません。それから数年、彼は毎日黙って掃除を続けました。ある日、子どもたちが遊んでいてせっかくきれいに掃除をした所を汚してしまいました。彼は思わずほうきを振り上げて怒鳴りました。「こら！ どうして汚すんだ」その瞬間、彼は本当に汚れている所に気がついたのです。「汚れていたのは、場所ではなく、自分の心なんだ」…その時、後に立っていたお釈迦様が言いました。「これですべてきれいになりましたね」…。それ以来、彼は汚れが落ちにくいのは人の心も同じだと悟り、ついに仏教の教えを理解したそうです。

私たちは、「掃除はめんどくさい。さぼりたい」「おしゃべりをしながらやりたい」「自分だけ楽をしたい」など、心の中に汚れがあるそうです。掃除をだまっって一生懸命にすることは、その心の汚れをきれいにするということにもなる、というお釈迦様の教えだそうです。

心をきれいにする掃除。そのポイントは黙ってやること。…掃除をする場所も、自分の心も、きれいにしたと思ってもまた汚れる。でも、どうせ汚れるからといってほったらかしにはしない。それはなぜだろうか？

## 感謝をこめて！ ～図書委員会～

毎年のように書籍購入のために寄付をしてくださる前嶋修身さん。図書委員会が感謝の思いを込めて寄せ書きを作成した。ふるさとや母校を思うあたたかい心と、人としての生き方を学ばせてもらえるね。まだまだ「読書」という点では課題が残る一中生。遠く東京から贈られる大先輩からのエールに、ぜひ一人一人が本を手に取りこたえていこう。**一冊の本には、人生を丸ごと変えてしまう力がある！良き本との出逢いを！**



